

令和7年11月20日
国土政策局地方政策課あばしりし しおじりし いまばりし
網走市・塩尻市・今治市の地域づくり3団体が
「国土交通大臣賞」を受賞～「新時代に地域力をつなぐ国土」を体現する10団体を
令和7年度「地域づくり表彰」受賞団体に決定～

国土交通省は、関係団体との共催・後援で、創意・工夫ある「地域づくり」活動の優良事例を表彰する「地域づくり表彰」を、昭和59(1984)年以来、実施してきました。

今年度は、共催者に「全国二地域居住等促進官民連携プラットフォーム」が加わり、新たに「全国二地域居住等促進官民連携プラットフォーム賞」を創設しました。全国各地より、数多くの個性豊かな事例を推薦いただき、優良な10事例について、「国土交通大臣賞」等で表彰することとしました。

いずれも、それぞれの課題解決を契機にして、地域の持続可能性の向上・拡大に繋げている取組です。これらは、国土づくりの目標として、「新時代に地域力をつなぐ国土」を掲げ、令和5年7月に閣議決定された、「第三次 国土形成計画（全国計画）」にも呼応するもので、「持続可能な生活圏の再構築」や、「地域を支える人材の確保・育成」といった重要施策に対応する先進的取組と言えます。

各受賞団体には、受賞を契機に更なる活発な活動の展開を、また、全国各地の皆様には、各事例をご参照いただき、地域の課題の克服や魅力の向上に向けた取組の更なる進展を期待しています。

- 主 催：国土交通省、全国地域づくり推進協議会*、全国二地域居住等促進官民連携プラットフォーム**、一般財団法人 国土計画協会
後 援：株式会社 日本政策投資銀行
○ 本表彰制度は、昭和59(1984)年に始まり、今回で42回目
○ 今年度は、全国各地から32団体が推薦され(昨年度45団体)、うち10団体(昨年度9団体)を表彰
○ 各団体の取組の詳細や表彰の様子等は、国土交通省サイト及び特設サイト(※)で紹介
(※)「地域づくり表彰」特設サイト(一般財団法人 国土計画協会) <https://www.chiikizukuri.kok.or.jp/>
○ 「第三次国土形成計画(全国計画)」
https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudokeikaku_fr3.000003.html

表彰名	受賞団体名または活動名(所在地) (全国地方公共団体コード順)
国土交通大臣賞	もつと MOTレール倶楽部(北海道網走市)
	ラボ 塩尻Lab(長野県塩尻市)
	せとうち みなとマルシェ実行委員会(愛媛県今治市)
全国地域づくり推進協議会 会長賞	「まめ」新聞有志会(新潟県上越市)
	京田辺 農福観 地域づくり協議会(京都府京田辺市)
全国二地域居住等促進官民連携 プラットフォーム賞	かいせい館(福岡県古賀市)
国土計画協会会長賞	はくさんせなみ 白山瀬波の会(石川県白山市)
日本政策投資銀行賞	くどやま芸術祭実行委員会(和歌山県九度山町)
地域づくり表彰審査会 特別賞	しとう 市東地域 15町会 共創プロジェクト(千葉県市原市)
	あらいじゆくえき 新井宿駅と地域まちづくり協議会(埼玉県川口市)

*:「全国地域づくり推進協議会」は、地域づくり活動の発展・拡大に資することを目的とした地方公共団体からなる協議会

***:「全国二地域居住等促進官民連携プラットフォーム」は、二地域居住等を促進していくための官民の協議会

○ 表彰式の日時・場所等については、各自治体(別添資料3参照)にお問合せください

「地域づくり表彰」の詳細、過去の事例については

地域づくり表彰  で検索を

【問合せ先】

国土政策局 地方政策課 渡部、馬場
代表:03-5253-8111(内線29-404、29-422)
直通:03-5253-8363

令和7年度「地域づくり表彰」審査会 委員名簿

(○は座長、敬称略)

(有識者委員)

(五十音順)

	い	とう	さと	こ	
	伊	藤	聡	子	フリーキャスター
○	さ	た	いち	ろう	
	坂	田	一	郎	東京大学 地域未来社会連携研究機構 機構長 兼 工学系研究科 教授
	さん	べ	ひろ	み	
	三	瓶	裕	美	「つちのと舎」代表、総務省地域力創造アドバイザー、 地域おこし協力隊サポートデスク専門相談員
	せ	た	ふみ	ひこ	
	瀬	田	史	彦	東京大学大学院 工学系研究科 准教授
	ほり	ぐち	まさ	ひろ	
	堀	口	正	裕	株式会社 第一プログレス 代表取締役社長 兼 TURNS プロデューサー

(共催・後援者委員)

(順不同)

	み		た	ろう	
	峰		達	郎	全国地域づくり推進協議会 会長（唐津市長）
	ひ	や	ゆ	ひろ	
	平	山	幸	宏	全国二地域居住等促進 官民連携プラットフォーム 共同代表（那須町長）
	しょう	ぜん	しん	じ	
	小	善	真	司	一般財団法人 国土計画協会 専務理事
	は	だ	ふ	よ	
	原	田	文	代	株式会社 日本政策投資銀行 常務執行役員
	あ	の	まさ	はる	
	天	野	正	治	国土交通省 大臣官房審議官

以上

令和7年度「地域づくり表彰」 審査後の総評

昭和59年度に始まり「地域づくり」に対する表彰制度としては最も古い部類に入る本表彰だが、第42回にあたる今年は、東京一極集中の是正や地方創生に資する「二地域居住促進法」の施行からの初の実施であった。

そのため、本年度より共催者に「全国二地域居住等促進官民連携プラットフォーム」が加わり、新たに二地域のプラットフォーム賞が新設された。

本年度も、全国各地より、数多くの個性豊かな事例を推薦いただき、本資料にあるとおり、「国土交通大臣賞」をはじめとした全10事例について各賞を決定したものである。今年の審査の総評は下記のとおり。

- これまでも「関係人口」という言葉は数多く使われてきているが、今年の事例では、活動への参加者が「関係人口」のまま留まるのではなく、地域が直面している課題の解決や夢の実現に共創していく仲間となる取組が見られた。「関係人口」が街や地域をつくりかえる主人公にもなりうる実例を見せていただいた思いである。
- 「二地域居住」については、それをゴール・目的とするのではなく、それを外の人と地域の人との共創の「手段」として捉え、いかに新たな活動やビジネスの立ち上げにつなげていくかという、「二地域居住」を「どう生かすか」という観点で、地域づくりにおいて大切なことが確認できた。
- 印象に残ったのは、鉄道と現代アートなど、地域の平時の生活とはかなり距離がある、エッジの効いたテーマが、独自のストーリーを生み出し、次第に地域の方々の共感や参加を得て、「地域づくり」の重要な要素へと進化していく実態モデルも提示いただいたようであり、昨年度の、「スポーツによる地域おこし」に引き続き、「趣味」や「推しへの情熱」とか「アート」などが地域に新たな新風を吹き込み、地域づくりの足がかりになったということは、大変興味深い。自分たちが素晴らしいと信じている地域価値や資源に、諦めずに光を当て続け可視化していたこと、外の人々に地域価値に触れていただく機会を丹念に積み重ねたこと、また、地域資源への光の当て方の工夫によって思わぬ大きな効果を生むことも分かった。
- 今年の優良事例は、内容の質の違いこそあれ、地域が衰退してきているという深刻な危機感を元に、足元の、身近な、あるいはコアなグループ活動をスタート点として、何とかしたいという思いと、自分たちの小さな楽しみがある取組を1つ1つ積み重ね、次第に外の人々やステイクホルダーを巻き込んだ結果、それが大きなうねりとして広がり流れを形成できた取組が少なくなかったように思う。
- 事例の場所的特性に着目すると、今年は都市近郊地域の地場の皆さんの危機感の強さに改めて驚かされた。市単位では全国的に見ても恵まれている市でも、中の地区単位で見ると、地域産業の衰退、交通の利便低下、地域アイデンティティの喪失懸念、そしてむしろDID、CBD等に近いが故に明暗がより際立ち、地場の方々の地域の持続可能性への危機感が強く示されていたことが印象的だった。
- 今年は、「地域づくり」を背後から支える主体やしくみの存在の大切さについても考えさせられた。従来型のメセナやCSRから、CSV＝地域づくりや地域課題等の解決と企業目的とを「相乗的」に高め合う取組＝が新鮮に感じられたし、更なる広がりを期待したいところである。また地域課題の解決法を得るだけでなく、中間支援組織が、解決の担い手探しや実装を支えていくという構造にも大いに感心させられた。
- 「地域づくり」の歴史は、この表彰だけでも半世紀近い長さを持つ訳だが、過去の事例を改めて振り返ると、常に「持続可能性をどう確保していくか」という問いとの戦いであったとも感じる。「持続」には、「若い人」「地域外の人」の参加・参画が不可欠で、そのために新しい共創・協働の場づくりこそが前提となるのだろう。そして、今年の事例を見て、「若い人」「地域外の人」の参加・参画を得る手段として、改めて「関係人口」「二地域居住」という枠組みの有効性や新たな可能性を感じたし、幅広い参加者と関係性の深化のしくみとして、様々な趣味集団・民間企業との連携や、受入地域側の工夫としての「地域ラボ」等の交流の枠組みやマッチングの仕組みが有効に働いていたと感じられた。
- 最優秀賞に当たる今年の大臣賞については、このような背景を踏まえた「持続可能性の高さ」が特に評価されたものである。そしてこれらの事例から「持続可能性」は「関係性の広がり」と深く関わることもよく分かった。では、「関係の広がり」は何が左右しているのかを考えると、やはり「共感」と「意識の変化」であろう。皆がそれぞれの思いでガムシャラにやり続けていたら、自然発生的に大きな輪やうねりが生じ、うまく回ったということかもしれない。そこから読み取れるのは、それぞれの内なる声や情熱にしたがって「はじめの一步」を踏み出しそれを継続することを通じ、新しい仲間や支援の手が増えていったということだろう。今後への示唆として、小さな事でも・少ない仲間でも「最初の一步を踏み出してみる」こと、そして、外の人々との交流地道に紡いでいくこと、そのなかで独自のストーリーに裏付けられた価値を作り出すことが幸運のチャンスを引き寄せることにつながるのではないかと考える。

国土交通大臣賞

(総合的に最も優れた取組)

3 事例

(全国地方公共団体コード順)

もっと あばしりし
MOT レール倶楽部 (北海道網走市)

～ 鉄道を活かした 地域おこし ～

●活動の概要

「MOT (もっと) レール倶楽部」は、網走市を拠点に鉄道愛好家たちが参集し「まじめに・おもしろく・地域と鉄道を考える」をモットーに地域おこしに取り組むボランティア団体。

最初は「オホーツクにSLを走らせたい」という思いから始まり、次いで地元の食を活かした「オホーツク食い倒れ号」の貸切列車。

これをきっかけに実際に「SLオホーツク号」の運行にこぎつけ、その歓迎委員会を行政・鉄道事業者との協業で行う。

さらに冬の観光列車「流氷物語号」では、名作ゲームとの連携も実現。メンバーが沿線を案内し、グッズも企画し販売し、鉄道に興味が無かった人々も誘客。地域はもちろん全国からの来場者に「マイレール」意識を醸成させている。



コラボ列車に設置された乗車記念ボードで撮影をする乗客



北浜海岸で地域住民とともに大漁旗で列車を大歓迎

●選定理由

地元の食・文化・風景等に着目し、それを活かした企画を提案してだけでなく、40年前のゲームに着目した着眼点と、全国各地に味方を作り、権利者や事業者等を熱心に説得し連携にこぎ着けた熱意や関係者への根気強い働きかけ等は着目に値する。

観光列車に地域住民が手を振る活動なども地道ながら地域の「マイレール」意識の醸成にもつながり、地域づくりをわが事とするきっかけとしても、また関係人口創出の機会としても注目される。

また、周辺の世界自然遺産や国定公園の案内も含めたジオツーリズムの展開や、ゲームの聖地巡りなどで、より広い範囲に波及効果を生んでいる点も注目される。

鉄道愛好家が集まってスタートした活動が、地域を巻き込み、創意工夫で入り込み客数を着実に伸ばしている。鉄道、ゲームというニッチでコアなファン層にターゲットを絞り、彼らにヒットする企画や製品を次々とチャレンジしたことが独自性を生み、ブランド力にもつながっている。また、子ども向け学習貸切列車によって、子供のころから地域資源を知り「マイレール意識」を醸成させるような取組も、地域の未来にとって重要である。全国には廃線危機に直面している鉄道が多くあるが、内外のファンの力の創意工夫で新たな価値を創出できたという実例として元気をもらえる取組といえる。



塩尻^ラLab^{しおじりし} (長野県塩尻市)

～ 外からの人材と地域をつなぎ挑戦を生む ～

●活動の概要

「塩尻Lab (ラボ)」は、地域住民と都市部等の外部人材 (関係人口) とが協働で地域課題の解決から魅力を見だし、そしてその具体的実装まで行う実践的「プログラム」かつ「コミュニティ」。

地域住民が発議した今直面するリアルな地域課題を、都市部に住む人々が一緒になって問題の解決や魅力の再発見に繋げ、その成果を『仕様書』としてまとめ、その問題解決の担い手探しや実装まで行う「実践」に重きを置いていることが特徴。

オンラインミーティングだけでなく、現地のフィールドワークも行うことで、内外の人々の敷居の低い・新しいコミュニティづくりにも繋がっている。



特産品から地域課題まで幅広いテーマで
地域資源の磨き上げや活用に取り組むメンバー



フィールドワーク中の対話の様子

●選定理由

「塩尻Lab」は、地域住民と外部人材との協働による地域課題を解決するプログラムの組成から、実践までも促す仕組み。既に20を超える地域課題のテーマが取り上げられ、その検討のために100名を超える「関係人口」が生まれている等、量的な実績を積んでいる。

それだけでなく、「ワイン用ぶどうの栽培プロジェクト」の参加をきっかけに「二地域居住」を始めた人も出る等、「二地域居住」の優れたゲートウェイにもなっており、「二地域居住」促進の極めて優良なモデルである。

また、外部人材が地域で活躍し、輝き、地域と協働するためには、地域内外の人材が交じり合い、ごちゃ混ぜになることが重要であるなかで、そうした機能を果たすコワーキングスペース「スナバ」や、人材と地域の適切なマッチングを促す仕組みを整えていることも、地域の暮らしの「見える化」を通じ「わがまち」意識の向上につながっている。

これらの仕組みは、二地域居住者や本格的な移住者の目にも、大きな魅力として映るだろう。

既存の移住者や地元住民にとっても、居住年数の多寡に依らず、地域課題の「発議者」になり、多様な人材とともに地域の課題解決に当事者として関われる機会が得られるラボの存在は、常に新しい刺激に出会い、「わがまち」意識の向上や、移住者の定着、若者の転出の低減等にも繋がっていくだろう。



せとうちみなとマルシェ 実行委員会 (愛媛県今治市)

いまばりし

～ しまなみ海道開通で低下した港や町の賑わいを
マルシェで新たな人の出会いの場として復活 ～

●活動の概要

歴史的に瀬戸内における海の玄関口であり、造船で賑わった今治港も、「しまなみ海道」の橋々の開通により、交通の結節点としての役割が低下してしまった。そこで「交通の港」から「交流の港」への脱皮を狙い「瀬戸内のうまいに会えるマルシェ」を展開することとした。

月2回の開催だが、多種多様な100余の店舗が出店。焼豚玉子飯、鉄板焼鳥等のご当地グルメの販売や、地物魚の競り市の開催など、今治らしさを発揮する場にもなっている。

現在では夏限定の夜マルシェやクルーズ船運航など様々な取組の実験場ともなっており、中心商業地への導線づくりなどにも繋がってきている。



海と港を楽しむ交流の場、せとうちみなとマルシェ



来島海峡大橋・急潮流などを間近で体感できる
爽快ミニクルーズ

●選定理由

「しまなみ海道」開通により、港や中心市街地の衰退がもたらされてことに危機感をおぼえ、「せとうちブランド」との出会いの場として「食」をきっかけに、今治の地域資源の発露の場として再定義した。

また、登録店舗数が600あるなかで、月に2回という希少性と出店数を毎回100余に絞ることで毎回新鮮な出会いと、出展者間の競争による磨き上げが進んでいること。

毎回、新たな出会いが生じ易く、リピーターを生んでいること、市や商工団体だけでなくボランティアや学生などの活躍の場が開かれている点などで、官民連携の多様な主体による持続可能な運営体制ができていることで、地域コミュニティの活性化に繋がっている。

集客力の向上により、周辺市街地への回遊性向上にも資しており、中心市街地全体の新たな人の流れと賑わいの牽引車と言える存在となっており、数多くの創意工夫は、同じく港地区の再生に悩んでいる他地区の参考や手本となる取組といえる。



「まめ」新聞有志会（新潟県上越市）^{じょうえつし}

～ ミニ新聞『まめでやったけえ』の発行と お弁当昼食会 ～

●活動の概要

ミニ新聞『まめでやったけえ』（方言で「お元気でしたか？」の意味）は、冬には4mもの雪で閉ざされる山間地区の住民有志が、集落の日々の出来事や関心事などを綴ったもの。

2011年の東日本震災の不安な気持ちを少しでも明るくしようと発行を始めた。年に3～5本のペースで発行した記事を10年分の記事をまとめた冊子も刊行しており、現在、第2集も刊行。冊子は地区の人数を大きく超える250部を発行し、地区を訪れる人などに読んでもらっている。

10年以上もの蓄積の冊子化により、思い出の写真や亡くなった方を思い出すきっかけとなり、皆で支え合って生きる元気が湧いてくる。また冊子はこれきっかけに外の方が集落のファンになってくれている。



「まめ」新聞有志会3人が新聞記事について話し合う様子



お弁当昼食会で振る舞うお弁当の準備

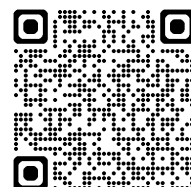
●選定理由

人と人をつなぐ取組としてミニ新聞を発行し、伝統行事の由来や、ワラ靴の編み方、地元の芋煮の作り方なども新聞記事にするなど、日々歳々失われていく地域の文化や記憶の定着手段としても機能している。

また、地区の食文化を活かした栄養バランスの取れたお弁当作りの場を作り、地区の孤立するお年寄り等を呼び込むなど、今後の孤立対策の参考になる取組も行っている。

執筆者に地域外の人を取り入れ、交流のきっかけとしている点も優れている。他地域からもファンが出てくる契機にもなっており、地域の持続可能性の拡大にも資している。

山村集落や豪雪地帯によらず、今や都市圏のニュータウンや団地などでも過疎化・高齢化、そして孤立化が進むなかで、身近な地域の皆がいかにして結びつけ、楽しく、生き生きと、助け合いながら暮らしていくのか、その手段や手法の開発や導入・実装がいよいよ問われる時代にさしかかっており、大いに参考になる事例といえる。



のうふく かん

きょうたなべし

京田辺 農福観 地域づくり協議会 (京都府京田辺市)

～ 交流・連携の少ない市内の各地域資源・団体を、農業やマルシェ・観光で結びつける ～

●活動の概要

「多様な人々が繋がり、循環する地域づくり」をコンセプトに、農業・福祉・観光・商工などの各関係者が連携して、都市的エリアでのマルシェの開催、茶摘み・抹茶づくり体験などの観光ツアー、障がいのある方々の活躍の場を広げる活動、地域の特産品を目指したクラフトビールづくりなど多種多様な連携事業を展開している。

地域内の交流が薄いという地域課題に対し、農業の方が他地区に訪れてマルシェを開催し、都市部に通勤してる方が多様な方々と共にお茶や京野菜の農業体験し、また学生や大学を巻き込んで、地域の新しい名物を目指し「幻の大麦」を活用したビール開発を行うなど、協働・連携・共創の場やコミュニティとして、「農・福・観」をキーワードに人と人との出会いの拡大、繋がり深化を図っている。



菜の花回廊「市観光協会とタイアップ」



新住民が多い市北部の商業施設で年4回マルシェを開催
(約3千人が来場)

●選定理由

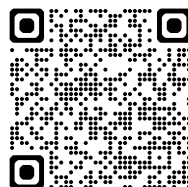
農業、福祉、観光、商工、異分野の組織がそれぞれの強みや弱み、資源や役割を持ち寄りながら連携し、「我がまち・京田辺」のイメージを積み上げていく活動は、平成の大合併から20年が経過しても、まちの一体感や地区間の交流が進んでいない地域にも大いに参考になる事例といえる。

福祉の視点と「稼げる地域」を両立し、各地区の文化の違いを「観光」として価値創造していくという試みは、参加者だけでなく、農業者・商工業者にとっても新しい刺激を得る機会ともなっている。

「京田辺まるごと観光ツアー」など、体験型の農業観光が各拠点のバリアフリー化の契機ともなっており、今後、遊休農地を活用し、「体験型農業観光業」を興したいとの構想もあり、多様な分野や特質を持った人々の協働の結果として地域課題も解決し、「稼げる地域」に繋がっていく可能性が高まっている。

協働・共創の場として、農業と福祉と体験型観光・商工業相互の「交流」と「連携」は、それぞれのやりがい・生きがい・稼ぎがいを引き出し、「地域の対流を生み出す装置」となっており、他地区の参考にもなる。

特に通所型の就労施設の方々が単なる労働力としてではなく、収穫した野菜を加工して「海老芋スープ」などのオリジナル食品を開発するなど、主体的に地域力を牽引する「サービスを提供する側」として参画している点にも注目したい。



全国二地域居住等促進 官民連携プラットフォーム賞

かい せい かん こがし 快 生 館（福岡県古賀市）

～ 湯けむりと ビジネスでつなぐ 二地域 ～

●活動の概要

地域に愛された歴史ある温泉旅館「快生館」を、官民連携により、二地域居住や企業誘致の拠点となる宿泊可能なワークスペース兼インキュベーション施設として再生。入居企業は2025年11月現在20社を超え、企業研修や合宿の受入も増加。さらに、古賀市の移住促進プロジェクト「古賀市親子移住体験」の拠点としても活用。駐在スタッフとして「コミュニティマネージャー」を配置することで外部人材と地域をつなぐハブ役を果たし、都市部人材が地域事業者や地域文化と直接触れる機会を創出、移住者の誕生や二地域居住を検討する都市部人材の受け皿としても機能することとなり、地域経済や交流の活性化に寄与している。ソフト面では、地域資源を活かした「テーマ型体験ワークショップ」の開催や、地域と共創する酒まつり等のマルシェを開催し、交流や消費を通じた地域経済循環を創出。

中でも、『狩猟体験ワークショップ』は、地域課題である有害鳥獣を命と向き合う体験資源として活用しており、地域のマイナスをプラスに転化することに加え、人手不足が深刻化する猟師の課題周知・育成にもつながっている。スタッフ自身も狩猟免許を取得し猟友会に参画、有害鳥獣駆除隊員として伴走するほか、様々な地域課題に対しても持続可能な産業モデルの実践に取り組んでいる。



「快く生きる」を体現する地域共創型マルシェ
「鹿の湯 酒まつり」



温泉×ワークの発想から生まれた
「湯治ワークショップ」での足湯

●選定理由

全国各地で同時発生している遊休施設の有効活用・再生の事例として、また「稼げる地域づくり」の資する新ビジネスを支援するインキュベーション拠点として、都市部の人材や企業を惹きつけ、彼らを触媒として地域に新たな経済循環を創出しはじめている。

いわゆるワークスペースとしての運営に加え、企業合宿の受入れや体験型ワークショップ、マルシェ開催などの取組により、年間のべ3,000人以上の利用者を生み、イベントや視察等で2,000人もの関係人口も生んでいる。

また、来訪者の消費行動を地域全体に波及する創意工夫により、「快生館」を起点とする地域内経済循環も創出している。その結果、周辺にオートキャンプ場や飲食店が開業する等、新たな民間投資が生まれている点も評価でき、地域に貢献する二地域居住を牽引するモデルとして、優良な事例といえる。



はくさん せ なみ

はくさんし

白山瀬波の会（石川県白山市）

～ 消滅危機に直面していた地区から発信する 民間主導の里山再生 ～

●活動の概要

かつて炭焼きで暮らしていた豪雪地帯の谷間の瀬波地区は、急激な人口減によって地区消滅の危機が懸念されていた。

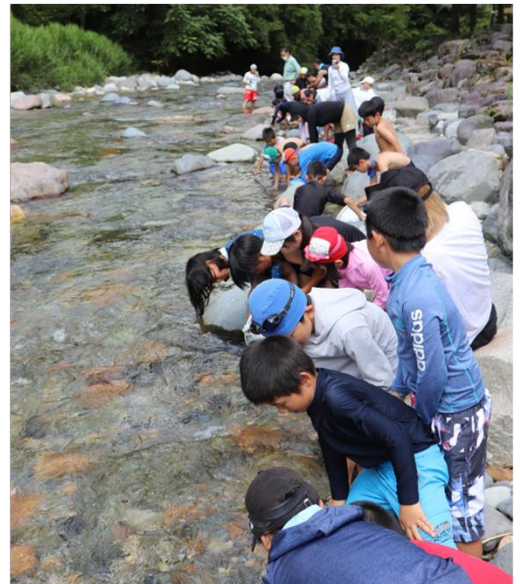
だが他に誇れる地域資源＝豊かな自然や景観などの地域資源を活かした交流人口の拡大によって、その流れに歯止めを掛けたいと考えた地元有志が会を設立。

その理念に共感した企業と連携して、廃道となった登山道の再生、キャンプ場や川遊び場の整備、地区伝統の炭釜の復活等「この地区を訪れて良かった」と思ってもらえる体験の場づくりに注力。

約10年の地道な活動の結果、現在ではキャンプ場周辺への訪問者年間約8千人、うち登山道整備によって出現したカタクリの開花時期には約3千人来訪し、また空き家の紹介や地元野菜の販売を行うなど、地域の持続可能性の拡大に繋がっている。



毎年200人近くの親子が集うキャンプフェスティバル



稚魚(カジカ)の放流による保護活動

●選定理由

地元の森林環境の保全再生と交流人口の拡大を通じて、地域の持続可能性の向上を図っている。

特に、稼働しないまま放置されていた自然体験施設の再生や活用により、雇用創出にも繋がった点、登山アプリへの掲載等、積極的な情報発信により、地域外の訪問者に希少植物や里山の価値を再確認させる機会を提供した点などは、単に当該地区の再生や持続可能性の拡大だけではなく、より広範な価値創造にも繋がっている点も評価できる。

官の補助金頼りでなく民間の力で里山が再生した事例は珍しく、新規事業分野の開拓の一貫として、また、郷土愛やメセナだけでなく、CSV（共通価値の創造）の一貫として「地域づくり」に関心がある企業等は潜在的に各地にあるとみられ、そのような企業・団体等との連携による「地域づくり」の優良事例としても紹介する価値がある。

企業等との連携の結果、有望な地域資源が再発見・再注目され、寂れる一方だった里山に人が集まり、更に高齢者の雇用や生きがいにも繋がっていることは、今後、各地に波及して欲しい事例であり、ひいては全国的に里山の価値が再確認されるきっかけにもなり得るものと考えます。



くどやま芸術祭 実行委員会（和歌山県九度山町）

くどやまちょう

～ 町が まるごと 美術館に ～

●活動の概要

大阪の難波から電車で1時間。高野山の玄関口でユネスコの世界遺産に指定された寺院を有し大河ドラマ「真田丸」の聖地でもある九度山町も、この30年で人口が半減、既存の歴史資源頼りに限界を感じ始めていたところ、大河ドラマをきっかけに芸術家との繋がりが生まれ、町中での展示会を開催したところ好評であった。

そこに子どもたちに本物を見せてあげたいという思いが加わり、町中に寺院や道の駅を加え「町がまるごと美術館」というコンセプトの隔年の芸術祭（ビエンナーレ）を開催している。

開催については、ボランティアを募り、てづくりのイベントとして、多くの人を巻き込んでいる。

この「くどやま芸術祭実行委員会」の活動が「自分たちの地域は自分たちで盛り上げる」という機運を生んでおり、2年1度のひと月半という芸術祭の期間を超えて、通年で「町の我がごと化」「新しい挑戦に向かおうとする気概」を生んでいる。



「くどやま芸術祭」 実行委員メンバー



住民ボランティアも参加して絵画設営

●選定理由

都市との近接性や床しい豊富な歴史資源がありながら、若い世代にとっては、交流と出会いの不足を感じていたところ、芸術という切り口と自ら参加することで外来の人々との交流や出会いを得るチャンスが継続的に生まれてきている点は興味深いアプローチと言える。

町全体を、風景を借景にしつつ芸術祭のキャンバスに、という発想は、普段見慣れているふるさとの風景や文化を見直す好機にもなっており、芸術祭の合間にも、街の魅力の再発見や愛着の向上に繋がっていることは素晴らしい。

また、2年に1度の短期の貸し出しをきっかけに空き家や空き店舗の活用を考えるなど、町の空気を入れ換える効果も生み出されており、短期のイベントによる空き空間の活用による価値の見直し効果は、地域の参考にもなるだろう。

観光入り込みの効果はもちろん、数は少なくとも移住や、新しい店舗のオープンのきっかけにもなっており、地元の歴史資源の再発見や「まちなか」の活用を考えるヒントになる事例と言え、若者の郷土愛の向上とともに、地域経済に与える影響も注目される。



しとう 市東地域 15 町会 共創プロジェクト (千葉県市原市) いちはらし

～ 地域コミュニティの崩壊を防ぐ 住民主導による地域再生 ～

●活動の概要

我が国有数の工業都市と言われている市原市の東部にある自然豊かな田園風景のみられる「市東（しとう）」地域は、人口の減少や高齢化、小学校の廃校やバス路線の廃止など、地域の持続可能性を左右する深刻な課題に直面していた。

そこで15の町会の住民有志がこれらの地域課題の克服と地域アイデンティティの獲得を目指し、豊かな自然と歴史を活かした数多くのプロジェクトを創出。里山整備や、駄菓子屋「十五や」の開店、親子での防災キャンプ、地域の農産物を使った太巻き寿司づくりなど、地区外の人々も巻き込んで、誰もが地域に愛着と誇りが持てる多様多彩な活動を展開している。



里山の管理や耕作放棄地を再生するために
機器の技術を学ぶ技能講習会を開催



百年続く田んぼを作ろうと始めた「百ねんたんぼ」

●選定理由

若者人口の減少と高齢化、路線バスなど地域の足の消滅、耕作放棄地や低管理地の増加等の課題は、大都市圏内部においても急激かつ深刻に進行している。

これらはマクロな問題ではなく、地域の生活圏の持続可能性が問われるレベルとなっており、むしろ都市部に近接しているほど、その進行速度や明暗のコントラストは激しい。

本事例では、耕作放棄地を舞台に、その活用・再生のみならず世代を超えた交流の場が形成されており、農作物の販売、自然薯や市東米という新たな特産物、さらには自然学校という形で次世代の地域への愛着の醸成にまで視野を広げている。

また、特筆されるのは、市独自のポイント制度『いちはら推し活制度』を活用し、イベントの参加でポイントが得られ、それで地域内の協力店で利用できる仕組みを導入するなど「地域内経済循環」の工夫をしている点である。また活動には常に「こどもたちの視点」「楽しさ」を大切に、活動に参加するだけでも、身近な地域の価値を発見し何かを作り出せるんだという自信を持たせることで、次世代の地域への愛着を生み出している点が評価できる。

地区のための地区内での活動だけでなく、市境も超えて、近隣市のニュータウンや県外からの参加者も増えているようであり、地域の「匠」に自然や伝統の知恵を学ぶ多世代交流の場としての「自然学校」や地域の未来を可視化する「百ねんたんぼ」活動など、1つ1つは小さな活動であっても、1ターン者も含めた交流機会創出や参加・参画の機会増大の試みの積み重ねが、地域の「わが事化」や、地域住民に清新な誇りを生んだ点も素晴らしい。人口集中地区に近接している地区だからこその切迫する危機感が、15ものの多数の町会の協働を実現した点も、都市部・農村部を問わない地域内・地域間連携の大切さを示した一例として審査会の特別賞として紹介したい。



あらいじゅくえき

かわぐちし

新井宿駅と地域まちづくり協議会 (埼玉県川口市)

～ 繋がる小さな経済循環 地域資源を掘り起こし
都市農業・文化・歴史・産業に磨きを掛け「フェスタ」で展開 ～

●活動の概要

東京都に隣接し殆どが市街化区域である川口市の中で、本協議会のある神根地区は8割が調整区域で、歴史資源が残され伝統産業の植木などを含む緑豊かな地域。しかし最近、農地の放置や粗放的な利用が増えて「このままでは何の魅力もない、愛着の持てない地区になってしまう」という危機感が高まってきた。そこで、スマホもSNSも殆ど使わない平均60歳の地元の方々が、新住民も巻き込んだ魅力ある持続可能な地域づくりをめざし、都市農業と歴史的な文化財や古くからの伝統を核とした活動を構想し、多彩な部会を設置し活動を展開しはじめた。具体的には地場野菜を「かみね野菜」としてブランド化し、収穫体験などを通じて、新住民と農家との交流を深めるとともに、古い城址や古民家などの調査研究と史跡巡りイベントなどと結びつけ、この地区の歴史的価値を再発見し情報発信することでふるさととしての愛着を高め、伝統工芸の「赤山洪」の復元と普及に注力、さらに体験教室などを開催し、後継者育成と文化継承を図っている。また、農家と地域の商工業者と連携し6次産業化商品を開発、地域イベント「イナフェスタ」(新井宿駅周辺地区から離れ、より広い面積のハイウェイオアシスに隣接した自然公園「イナパーク川口」が会場)に、地場野菜の直売や地元グルメの体験、企業と大学が連携したイベントや音楽ライブ、ワークショップ等の多彩なイベントを展開。



収穫祭・地域の文化的コミュニティの発表の場
「イナフェスタ」を開催



日常的に防水・防腐・染料として使われていた赤山洪
を復元し、染物や工芸品を製作

●選定理由

残された放棄地を粗放的な利用にまかせるままにせず、積極的に都市農業を交流の原動力として活用し、併せて忘れられがちな歴史文化や失われていた産業・製品の復活、さらに新住民や地域の様々な規模の企業が連携することで、それぞれにやりがいが出る共創の場として協議会が活性化されている点に注目したい。耕作放棄地と寝るだけのベッドタウンという捉え方を逆転し、市街化区域では得られない・他にない地域資源を有する地区として、その個性と強みを磨き上げ、都市化の進む地域においても、残された自然・文化・産業を生き返らせることで、農と住まいを有機的に融合させた賑わいを創出し、製品のブランド化も果たしたことは全国各地の市街地隣接の調整区域の活性化のヒントとして、手本性が高い。

定期的なイベントの実施により、地域のお店や若い人の企画参加も増えてきて、当初とは比べものにならないほど多彩な老若男女が関わる活動に進化したこと。歴史・文化や地元の産品が一同に披露される場として交流の核となるフェスタを活用するなど多彩な活動を連続的・有機的に連携させ、小さな経済循環を積み上げて段階的に大きく育てている発展性と戦略性は、農業活用型の地域づくりのモデルとして、大いに参考になる。

試行錯誤や手書きで始まった取組にオープンな繋がりを育てることで、どんどん新しい参加者を巻き込み・絶えず新企画に挑戦し成長していく姿は、地域と農業との幸せなマリアージュのモデルとして、どの地区にも参考になり元気づけられる事例として推薦できる。

新住民から見た場合、本協議会の取組は、身近な場所で自然や意外な深さと奥行きを持つ地域文化に触れられる、生活が楽しくなる取組というように映っており、安全で美味しい地場野菜が購入でき、週末にはごく近所で収穫体験で楽しめる。また、伝統工芸のワークショップに参加することで、代々この地域に住んでいる農家の方々から地域の歴史や特徴が聴ける出会いも得られ、単なるベッドタウンの交流イベントとは、奥行きも深みも違う体験を提供する主体と認識されている。



地域づくり表彰受賞事例 [都道府県別]

※ () 内の年度の数字は、「59～63」は昭和。「元～31」は平成、「R」は令和を表す。

都道府県	国土交通大臣賞 (国土庁長官賞)	全国地域づくり推進協議会会長賞 (全国モデル定住圏整備推進会議会長賞)
北海道	・ ポートフェスティバル実行委員会 (小樽市・元年度) ・ 市民創作「函館野外劇」の会 (函館市・3年度) ・ 士別サフォーク研究会 (士別市・5年度) ・ 昭和新山国際雪フェスティバル実行委員会 (壮瞥町・7年度) ・ 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ実施委員会の企画50人委員会 (洞爺村・11年度) ・ トロッコ王国美深の会 (美深町・13年度) ・ 北海道北オホーツクの大自然で学ぶ会 (浜頓別町・14年度) ・ 小樽職人の会 (小樽市・16年度) ・ 国際家具デザインフェア旭川開催委員会 (旭川市・16年度) ・ 長沼町グリーン・ツーリズム推進協議会 (長沼町・20年度) ・ 保育園留学推進協議会 (厚沢部町・R5年度) ・ 共助型困りごと解決サービス「ミーツ」 (厚真町・R6年度)	・ 南茅部沿岸漁業大学 (南茅部町・61年度) ・ 陸別商工会青年部 (陸別町・62年度) ・ 置戸町商工会青年部 (置戸町・63年度) ・ 江差地域大学 (江差町・4年度) ・ 北竜町 (北竜町・6年度) ・ 日本海オロロンライントライアスロン国際大会実行委員会 (留萌管内・9年度) ・ 北海道漁協婦人部連絡協議会 (札幌市・10年度) ・ 認定特定非営利活動法人霧多布湿原トラスト (浜中町・19年度) ・ 小樽雪あかり路実行委員会 (小樽市・22年度) ※日本政策投資銀行賞のみの受賞 ・ 美幌ブランド開発検討委員会 (美幌町・26年度) ※日本政策投資銀行賞のみの受賞 ・ 富良野オムカレー推進協議会 (富良野市・28年度) ・ 江差町歴まち商店街協同組合 (江差町・28年度) ・ まっかり温泉スリッパ卓球実行委員会 (真狩村・30年度) ※特別賞 ・ 鹿部町製品開発研究会 (鹿部町・R元年度)
青森県	・ 板柳町 (板柳町・5年度) ・ プロジェクトおおわに事業協同組合 (大鰐町・28年度)	・ 岩木町農業協同組合婦人部「ふるさとの味をつくる会」 (岩木町・60年度) ・ 山形地区住みよい環境推進協議会 (黒石市・63年度) ・ 岩木3・6・1の会 (岩木町・2年度) ・ ラブリーさい販売事業協議会 (佐井村・3年度)
岩手県	・ 田野畑村 (田野畑村・61年度) ・ 遠野市及び遠野物語ファンタジー制作委員会 (遠野市・元年度) ・ 藤沢野焼祭実行委員会 (藤沢町・11年度) ・ 展勝地がみあ市「バザール街道107」実行委員会 (北上市・12年度) ・ まぶりっと衆・早池峰の会 (遠野市・18年度)	・ (社) 岩泉町産業開発公社 (岩泉町・4年度) ・ 全国太鼓フェスティバル実行委員会 (陸前高田市・7年度) ・ あやおり夢を咲かせる女性の会 (遠野市・15年度) ・ しずくいし軽トラック市実行委員会 (雫石町・23年度) ・ 株式会社キャッセン大船渡 (大船渡市・30年度) ※日本政策投資銀行賞のみの受賞 ・ 全国地ビールフェスティバル一関実行委員会 (一関市・R3年度)
宮城県	・ (財) 地域産業創造センター (大崎、栗原地域・59年度) ・ みやぎ北上連邦協議会 (登米町、東和町、中田町、津山町・63年度) ・ 市民フォーラムを進める会 (気仙沼市・2年度) ・ セツネ宿町 (七ヶ宿町・4年度)	・ 特定非営利活動法人NPO みなとしほがま (塩竈市・21年度)

都道府県	国土交通大臣賞 (国土庁長官賞)	全国地域づくり推進協議会会長賞 (全国モデル定住圏整備推進会議会長賞)
秋田県	- 能代ミュージカル制作委員会 (能代市・4年度) - わらひ座 (田沢湖町・7年度)	狹半内地域センター運営協議会 (横手市・29年度)
山形県	- 最上定住圏づくり推進委員会 (最上・62年度) - 最上広域市町村圏事務組合・国際交流センター (最上地域・6年度) - 長井市レインボープラン推進協議会 (長井市・12年度) - 金山町 (金山町15年度) - 清流と山菜の里 ほその村 (尾花沢市・R4年度)	- 三川トピア創造委員会 (三川町・9年度) - アジア国際音楽祭 in しらか実行委員会 (白鷹町・10年度) - フルーツの直売施設運営管理組合 愛称「あぐり」 (楡弓町・14年度)
福島県	- 協同組合 会津復古会 (会津若松市・8年度) - 浪江焼麺太国 (浪江町・26年度)	- 三島町 (三島町・60年度) (有)ふるさとのおふくろフーズ (葛尾村・17年度) - 塙町ふるさと産業おこし連絡協議会 (塙町・23年度) - 特定非営利活動法人ハッピーロードネット (広野町・30年度) - 株式会社 元気アップつちゆ (福島市・R3年度) ※日本政策投資銀行賞
茨城県	取手アートプロジェクト実行委員会 (取手市・18年度)	- 木の文化塾 (大子町・15年度) - 河内の文化遺産を守る会 (常陸太田市・25年度)
栃木県	- 栃木「蔵の街」音楽祭実行委員会 (栃木市・8年度) - 那須まちづくり株式会社 (那須町・R2年度)	- 足利・名草ふるさと自然塾運営協議会 (足利市・24年度) - 真岡まちづくりプロジェクト (真岡市・R4年度) - 一般社団法人 釜川から育む会 (宇都宮市・R6年度) ※特別賞
群馬県	沢田農業協同組合 (中之条町・10年度)	- 利根沼田郷土の芸能祭実行委員会 (優良賞) (群馬県 利根沼田広域市町村圏・59年度) - 高崎映画祭事務局 (高崎市・9年度) - 桐生からくり人形保存会 (桐生市・19年度) - 昭和村さくら工房 (昭和村・26年度)
埼玉県		- 埼玉交響楽団 (熊谷市・3年度) - 浮野の里・葦の会 (加須市・10年度) - 合同会社 暮らしの編集室 (北本市・R4年度) - 行田市 及び 一般社団法人 行田おもてなし観光局 「行田花手水week 及び 希望の光」 (行田市・R5年度) ※日本政策投資銀行賞 3X3 KUK I 実行委員会 (久喜市・R6年度) ※日本政策投資銀行賞 - Shingashi めぐり・わくわくフェスティバル実行委員会 (川越市・R6年度) ※特別賞
千葉県	- 特定非営利活動法人 小野川と佐原の町並みを考える会 (佐原市・17年度) - 特定非営利活動法人まちおこし佐原の大祭振興協会 (香取市・21年度)	

都道府県	国土交通大臣賞 (国土庁長官賞)	全国地域づくり推進協議会会長賞 (全国モデル定住圏整備推進会議会長賞)
東京都	・ 名橋「日本橋」保存会 (中央区・15年度) ・ ハッピーロード大山商店街振興組合 (板橋区・19年度)	・ 世田谷区 (世田谷区・2年度) ・ 青梅宿アートフェスティバル実行委員会 (青梅市・12年度) ・ 向島博覧会実行委員会 (墨田区・13年度) ・ みたか太陽系ウォーク実行委員会 (三鷹市・R元年度) ※特別賞
神奈川県		・ 片浦レモン研究会 (小田原市・18年度) ・ 大磯市実行委員会 (大磯町・25年度)
新潟県	・ 佐渡國鬼太鼓 in 原宿実行委員会 (佐渡島・5年度) ・ 特定非営利活動法人ながさか生活情報交流ネットそいが (長岡市・19年度) ・ 大地の芸術祭実行委員会 (十日町市・22年度) ・ 株式会社 TREE (三条市・R5年度)	・ 柏崎演劇団体連絡会 (柏崎市・16年度) ・ 赤城コマランド (長岡市・18年度) ・ 小千谷闘牛振興協議会 (小千谷市・20年度) ・ 一般社団法人 高根コミュニティラボわあら (村上市・R2年度) ・ シルバーふれあいサロン やまゆり (柏崎市・R3年度) ※国土計画協会会長賞 ・ 「まちあそび」と「まちこらぼ」で取り組むゆるいまちづくり (燕市・R6年度)
富山県	・ 利賀村及び (財) 国際舞台芸術研究所 (利賀村・元年度) ・ 越中野外音楽劇団 (高岡市・6年度)	・ となみ少年国際交流推進協議会 (砺波市及び圏域5町4村・2年度) ・ いなみ国際木彫刻キャンプ実行委員会 (井波町・11年度) ・ 城端水車の会 (城端町・12年度)
石川県	・ (株) 香島津 (七尾市・9年度) ・ 春蘭の里実行委員会 (能登町・23年度) ・ 能登井事業協同組合 (珠洲市・30年度)	・ 横山振興会 (珠洲市・20年度) ・ 能美市商工女性まちづくり研究会 (能美市・29年度) ※日本政策投資銀行賞のみの受賞
福井県	・ 一般社団法人三國會所 (坂井市・29年度) ・ RENEW実行委員会 (鯖江市・R2年度)	・ 源氏物語アカデミー委員会 (武生市・8年度) ・ 東郷ふるさとおこし協議会 (福井市・22年度) ・ 竹田の里づくり協議会 (坂井市・27年度) ・ あわら湯けむり創生塾 (あわら市・28年度) ※日本政策投資銀行賞のみの受賞 ・ 近松の里づくり事業推進会議 (鯖江市・28年度) ※特別賞 ・ 鯖江市役所JK課 (鯖江市・30年度) ・ 特定非営利活動法人今庄旅館塾 (南越前町・R元年度) ※国土計画協会会長賞
山梨県	・ ポールラッシュ祭〜ハケ岳カンティフェア〜実行委員会 (高根町、長坂町、大泉村、小淵沢町・3年度)	

都道府県	国土交通大臣賞 (国土庁長官賞)	全国地域づくり推進協議会会長賞 (全国モデル定住圏整備推進会議会長賞)
長野県	- 人形カーニバル飯田実行委員会 (飯田市・63年度) - 全国短歌フォーラム実行委員会 (塩尻市・4年度) - 野沢温泉村 (野沢温泉村・10年度) (財)大鹿歌舞伎保存会 (大鹿村・15年度) - 諏訪アライアンスプロジェクト さいか (下諏訪町・24年度)	- ふるさと探訪実行委員会 (優良賞) (飯伊広域市町村圏・59年度) - 信濃木崎夏期大学 (大町市・12年度) - ひさかた風土舎 (飯田市・13年度) - ネバーランド株式会社 (根羽村・22年度) - 新山定住促進協議会 (伊那市・29年度) - かまくら応援隊 (飯山市・R元年度) - おしゃれ田舎プロジェクト (小諸市・R5年度)
岐阜県	- 東美濃高原開発推進協議会 (東美濃高原地域・3年度) - 国際陶磁器展美濃開催実行委員会 (多治見市、瑞浪市、土岐市、笠原町・5年度) - 飛騨高山観光協会 (高山市・14年度) - 有限責任中間法人明宝 (郡上市・20年度)	- 中山道若衆会 (美濃加茂市・元年度) - 白川郷荻町集落の自然環境を守る会 (白川村・8年度) - 美濃和紙あかりアート展実行委員会 (美濃市・21年度) ※日本政策投資銀行賞のみの受賞 - 神明大杉再生検討会議 (瑞浪市・R5年度)
静岡県	東遠地域経済研究会 (東遠地域・61年度)	- 清水港・みなと色彩計画推進協議会 (静岡市・23年度) - 大道芸ワールドカップ実行委員会 (静岡市・26年度) ※特別賞 - アカリノワ (静岡市・R2年度)
愛知県	AT21倶楽部 (豊田市・18年度)	- あいちの山村都市交流事業実行委員会 (三河山間地域・61年度) - 蜻蛉 (せいれい) の会 (大府市・14年度) - 島を美しくつくる会 (一色町・15年度) - 島を美しくつくる会 (西尾市・24年度) ※24年度は日本政策投資銀行賞のみの受賞 - 岩屋緑地に親しむ会 (豊橋市・26年度) - CHITACAT プロジェクト (常滑市・R元年度) ※特別賞
三重県		あいの会「松坂」 (松阪市・62年度)
滋賀県	- 高島町 (高島町・62年度) 「博物館都市構想」を推進する一連の活動体 (長浜市・元年度)	特定非営利活動法人蒲生野考現倶楽部 (日野町・19年度)
京都府	大江町 (大江町・7年度)	- 加悦町染色センター運営委員会 (加悦町・63年度) - 網野ふるさと塾 (網野町・元年度) - まいづる21世紀委員会 (舞鶴市・6年度) - 美山町 (美山町・16年度) - 特定非営利活動法人 地球デザインスクール (宮津市・17年度) - 水源の里連絡協議会 (綾部市・25年度)
大阪府		- 枚方宿地区まちづくり協議会 (枚方市・17年度) - みせるばやお (八尾市・R2年度) ※日本政策投資銀行賞

都道府県	国土交通大臣賞 (国土庁長官賞)	全国地域づくり推進協議会会長賞 (全国モデル定住圏整備推進会議会長賞)
兵庫県	・ (財) 丹波の森協会 (丹波地区・9年度) ・ 生野町 (生野町・16年度)	・ 加美町 (加美町・11年度) ・ 特定非営利活動法人 あわじ緑花協会 (洲本市・14年度)
奈良県	・ 吉野山灯り 実行委員会 (吉野町・13年度) ・ なら燈花会の会 (奈良市・14年度)	・ 川上村 (川上村・2年度) ・ 天の川実行委員会 (高取町・27年度)
和歌山県	・ 北山村 (北山村・15年度)	・ イノブタダービー実行委員会 (すさみ町・6年度)
鳥取県		・ 八東町高校生サークル「アウトロー」 (八東町・4年度) ・ 高橋孝一とロマンティック街道313連絡協議会 (北条町、倉吉市、関金町・7年度) ・ 特定非営利活動法人 未来 (倉吉市・24年度)
島根県	・ (株) 吉田ふるさと村 (吉田村・62年度) ・ 仁摩町シルバーランド計画推進協議会 (仁摩町・3年度) ・ サウンドファイブ夢の音会 (金城町・13年度) ・ 萩の会 (益田市・17年度) ・ 八雲国際演劇祭実行委員会 (松江市・18年度)	・ 三隅町 (三隅町・8年度) ・ 大東国際文化交流協会 (大東町・12年度) ・ 隠岐FM PAOPAO (西郷町・14年度)
岡山県	・ 津山城東むかし町実行委員会 (津山市・17年度) ・ NPO法人かさおか島づくり海社 (笠岡市・19年度)	・ 津山広域事務組合 (会長賞) (津山市・59年度) ・ 津山国際総合音楽祭委員会 (津山市・5年度) ・ 高橋孝一とロマンティック街道313連絡協議会 (2市12町5村・7年度) ・ 百姓王国 (吉備中央町・16年度) ・ 矢掛の宿場まつり大名行列実行委員会 (矢掛町・30年度) ※特別賞 ・ 倭文西まちづくり協議会 (美咲町・R5年度) ※国土計画協会会長賞 ・ 下津井シービレッジプロジェクト (倉敷市・R6年度)
広島県	・ 藻塩の会 (蒲刈町・12年度) ・ 横川商店街振興組合・横川商店街連合会 (広島市・16年度)	・ 高橋孝一とロマンティック街道313連絡協議会 (福山市、神門町・7年度) ・ 庄原市高野地域づくり未来塾 (庄原市・27年度) ※日本政策投資銀行賞のみの受賞 ・ 一般社団法人 ふるさと楽舎 (広島市・R4年度) ※特別賞
山口県		・ とつてもゆかいな秋吉台ミーティング (秋芳町・11年度) ・ 壺まつり実行委員会 (防府市・22年度) ・ 特定非営利活動法人 まほえみの郷トイトイ (山口市・R元年度) ・ ささラブ応援隊 (萩市・R4年度) ※国土計画協会会長賞

都道府県	国土交通大臣賞 (国土庁長官賞)	全国地域づくり推進協議会会長賞 (全国モデル定住圏整備推進会議会長賞)
徳島県	- 特定非営利活動法人 アクア・チッタ (徳島市・R5年度) - さかもと元気ネットワーク (勝浦町・R6年度)	- 阿波人形浄瑠璃「勝浦座」(勝浦町・18年度) - うだつの土曜祭実行委員会(つるぎ町・20年度) - 一般社団法人そらの郷(三好市・30年度) - 海部次世代園芸産地創生推進協議会(海陽町・R元年度) ※日本政策投資銀行賞 - 大歩危リバーフェスティバル実行委員会(三好市・R2年度) ※特別賞 - 特定非営利活動法人 美郷宝さがし探検隊(吉野川市・R4年度) ※特別賞
香川県	四国こんびら歌舞伎大芝居推進協議会(琴平町・2年度)	- ふるさとの家(東かがわ市・18年度) - 四海漁業協同組合(土庄町・R2年度) ※特別賞
愛媛県	- 双海町(双海町・9年度) - 三津浜地区にぎわい創出実行委員会(松山市・R3年度)	- 四国タオル工業組合(今治市・23年度) ※日本政策投資銀行賞のみの受賞 - 松山離島振興協会(松山市・25年度) - 特定非営利活動法人 俳句甲子園実行委員会(松山市・28年度)
高知県	- 中川をよくする会(土佐山村・16年度) - 特定非営利活動法人日高わのわ会(日高村・R元年度)	- ボランティアグループあかつき会(南国市・10年度) - 四万十町十和おかみさん市(四万十町・21年度) - 特定非営利活動法人 土佐の森・救援隊/木の駅ひだか(日高村・R2年度) ※国土計画協会会長賞
福岡県	- 若松で音楽を聴く会(北九州市・20年度) - NPO法人久留米ブランド研究会(久留米市・27年度)	- 南丘コミュニティ委員会(北九州市・7年度) - アフリカ教育基金の会(北九州市・9年度) - 久山町(久山町・R4年度) ※日本政策投資銀行賞
佐賀県	- 唐津市高島開発組合(唐津市・6年度) - 春日活性化委員会(嬉野市・R3年度)	- フォーラム鹿島(鹿島市・63年度) - 小城源氏ボタル保存会(小城町・3年度) - 佐賀バレーンフェスタ組織委員会(佐賀市・8年度) - 肥前町国際交流協会(唐津市・17年度) - 恵比須DEまちづくりネットワーク(佐賀市・25年度) ※日本政策投資銀行賞のみの受賞
長崎県	- 大島町(大島町・61年度) - 伊王島町(伊王島町・2年度) - 厳原港まつり“対馬アリラン祭”振興会(厳原町・10年度) - 一般社団法人 東彼杵ひとことものの公社(東彼杵町・R4年度)	- 鷹島町(鷹島町・5年度) - させぼ塾(佐世保市・11年度) - 南島原市冬のお祭り実行委員会(南島原市・24年度) - DEJIMABASE(長崎市・R3年度) ※特別賞 - 松浦市(松浦市・R3年度) ※特別賞 「島の人をつなぐ」=奈留まち協もやい場(五島市・R6年度) ※国土計画協会会長賞
熊本県	- 熊本市南部地区市民の会(熊本市・7年度) - 山北幸と下村婦人会(湯前町・8年度)	(社) 熊本県青年塾(宇土市・5年度) (財) 学びやの里(小国町・10年度) - 宮原町(宮原町・15年度) - 株式会社福田農場ワイナリー(水俣市・16年度) (財) 清和文楽の里協会(三都町・19年度) - 美里フットパス協会(美里町・26年度) - 風の会(宇城市・29年度) - 小岱山薬草の会(玉名市・30年度)

都道府県	国土交通大臣賞 (国土庁長官賞)	全国地域づくり推進協議会会長賞 (全国モデル定住圏整備推進会議会長賞)
大分県	・ 竹田市観光協会 (竹田市・17年度) ・ 別府八湯ウォーク連絡協議会 (別府市・20年度)	・ 日本童話祭執行委員会 (玖珠町・60年度) ・ 大分川流域ヘルシー観光事業連盟 (豊津原町、狹間町、庄内町、湯布院町、直入町・元年度) ・ グループこすもす (杵築市・3年度) ・ 郷土の文化と国際交流を考える会 (大分市・4年度) ・ 大分方言弁論大会実行委員会 (豊後高田市・5年度) ・ 安心院町グリーンツーリズム研究会 (安心院町・13年度) ・ パーフェクトビーチ・里海ヘルスツーリズム推進協議会 (豊後高田市・R3年度) ※特別賞
宮崎県	・ (社) 都城市北諸県郡医師会 (都城市及び北諸県郡・60年度) ・ 小川作小屋村運営協議会 (西米良村・25年度)	・ 南郷村 (南郷村・6年度) ・ 本町研究会 (日南市・7年度) ・ 花堂むらおこしグループ (高原町・9年度) ・ 山之口麓文弥節人形浄瑠璃保存会 (都城市・20年度) ・ 五ヶ村村おこしグループ (高千穂町・21年度)
鹿児島県	・ (財) からいも交流組合 (鹿屋市・4年度) ・ 三島カップヨットレース実行委員会 (三島村・6年度) ・ 美山窯元祭り実行委員会 (東市来町・11年度) ・ 大隅の國やっちく松山藩 (志布志市・19年度) ・ 東シナ海の小さな島ブランド株式会社 (薩摩川内市・R6年度)	・ 吹上浜砂の祭典実行委員会 (加世田市・2年度) ・ NPO法人親睦おこそ会 (南九州市・27年度) ・ HUB a nice d! (瀬戸内町・R3年度) ・ 長島町 (長島町・R3年度) ※特別賞 ・ 「竹・福・商」連携による大崎町「竹の資源化」モデル (大崎町・R5年度) ※特別賞
沖縄県	・ 宮古広域圏事務組合 (1市3町2村・63年度) ・ 「ツール・ド・おきなわ」実行委員会 (名護市・8年度) ・ 壺屋やちむん通り会那覇市・11年度) ・ 恩納村商工会 (恩納村・14年度)	・ 中部広域市町村圏事務組合 (4市5町3村・62年度)

※賞の改廃経緯

昭和59年度(第1回)～昭和63年度(第5回)までは「全国モデル定住圏整備推進会議会長賞」、
平成元年度(第6回)からは、「全国地域づくり推進協議会会長賞」に変更

省庁再編により、平成13年1月6日から国土庁が国土交通省になったため、
平成13年度(第18回)から「国土庁長官賞」が「国土交通大臣賞」に変更

平成21年度(第26回)から「日本政策投資銀行賞」、
平成26年度(第31回)から「審査員特別賞」
令和元年度(第36回)から「国土計画協会協会賞」が、それぞれ創設された